

神奈川県立こども医療センターオレンジクラブ



ボランティアニュース

235号 2023年7月号

発行 神奈川県立こども医療センター オレンジクラブ事務局

編集責任者 ボランティアコーディネーター 加藤 悦興

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4 Tel. 045-711-2351 (代表)

ホームページ <https://orangeclub.kcmcvolunteer.com>

ブログ <https://blog.kcmcvolunteer.com>

4年ぶりの「大野和士ころもふれあいコンサート」体育館で開催



7月13日木曜日、重心施設ひだまりのグランドピアノを移動しての開催でした。今年で11回目。これまでは総合待合室で行われていましたが、まだまだ感染対策が必要な中での選択でした。横浜南支援学校の児童生徒さんたちをはじめ、およそ100人近い方が素晴らしいオペラにはもちろんの事、大野和士さんの温かさにも触れることが出来、大満足ではなかったでしょうか。コンサートのお礼に、児童生徒さんから手作りのカードとオレンジクラブで作ったウクライナ支援のブローチをお渡ししました。

今回の開催に当たっては、住友生命様等の協賛、オレンジクラブの皆さんの会場準備、そしてエフエム戸塚パーソナリティの相浦やよいさんのボランティアでの司会、多くの方のお力で開催されました。



今回、2 日間に分けてプラネタリウムを鑑賞できるように企画。プラネタリウムを行う部屋をセンサリールームとして五感を刺激できるように、風を起こしたり、ミラーボールを付け、さらにアロマオイルの加湿器を使いながら、よりプラネタリウムを楽しめるよう工夫していきました。子どもたちの声として「眠くなるね。いいにおいだった」や「星がとってもきれいだった」「もう一回見たい」と笑顔が見られました。ご家族からも「子どもと一緒に見ることができて良かったです」「入院中にこんなイベントがあるとは思いませんでした」と感謝の声が聞かれました。プラネタリウム鑑賞後に笹に飾りをつけるご家族もいて季節を感じることができました。

長期入院している子どもたちは単調な生活の中で季節を感じにくい環境にいます。また、重症心身障害児など寝たきりの子どもたちにとっても良い刺激となりました。季節を感じる事のできる行事はとても大きな意味を持つと考えられます。今後も季節の行事を通して、様々な体験が出来るようにしていきたいです。



今年で3度目、この時期恒例のイベントになりました。5西の他、重心施設ひだまりや肢体施設などで実施しました。「オレンジクラブ」と「ちあふぁみ」の協賛イベントです。(ボランティアコーディネーター加藤)

ぽぽんた通信 No62

きくちゃん

6月26日にボランティア研修会があり出席した。こども医療センターのボランティアは300人ぐらいの在籍だったが、コロナのせいか、それとも高齢化で活動出来なくなったのか現在230人ぐらいとのこと。そう言う私も高齢者だが、まだ大丈夫と変な自信を持っていて、それが危険なのだと自覚させられる日にもなった。研修会には若い方がたが10名ほど出席されていて、とても眩しい。この日はボランティア活動表彰もあり、我が夫も5年表彰を受けた。感染制御室の横谷氏からはセンターの感染対策について、おはなしがあり、特に手洗いと手指消毒については改めて勉強させていただいた。キクちゃんは最初から間違っていて、ただ手を擦っていただけだけど、手のひらのしわ、親指と小指の洗いそこねが多い事を意識させられた。これはぽぽんたの皆さんにもお知らせしなければ、と思ったけど、もうみんな知ってるかな？ボランティア活動を長期に実施している、谷内さんのおはなしも新鮮だ。“クリスマス大好き”が印象的だった。“大好き”

は自分だけでなく、他の大勢の人たちを巻き込んで嬉しい気持ちになる。『大好き』から生まれるアイデアで、楽しいクリスマス飾りと院内飾りが楽しみだ。

【Child Wish 活動再開に向けた気持ちや取り組み】

神奈川県立保健福祉大学 Child Wish 代表 河北優心

Child Wish は、病棟の外で待っているきょうだいたちにとって病院にいる時間が楽しいものになってほしい、それによってご家族が安心して病気の子どものそばにいられるようにと願いながら、活動しております。また、病気の子どもたちのきょうだいについて多くの人たちが目を向ける、考える機会・きっかけを作り、社会に発信する活動も行なっています。Child Wish という名前は「子ども (Child) とその周りのご家族・医療従事者・ボランティア、私たちメンバーの願い (Wish) を活動の中で感じ、実現していきたい」という意味を込めて名付けられました。

新型コロナウイルスの影響により約 3 年間活動休止していましたが、制限緩和により、新規メンバーを募り活動を再開いたしました。以前活動を行っていた先輩方は在学しておらず、大学 1 年・2 年の新入部員で鋭意活動中です。

小児医療や児童福祉に関心を持つメンバーが多くいます。既存の「きょうだいお預かり」だけでなく、オレンジクラブさんのボランティアへの参加やセンター内でのイベント企画運営などの活動も考えています。

新生 Child Wish として、きょうだい児・入院中の子ども・ご家族への包括的な支援を行い、多くの人と繋がり、優しく温かい心の輪を広げていきたいです。

病気に関わる全ての子どもたちとそのご家族に笑顔と元気を届けられるような活動を行ないたいです。今後お目にかかる機会があれば、どうぞよろしく願いいたします。



写真上：7月8日（土）Child Wish の皆さんを対象にした研修会。病院の説明や、きょうだい預かり保育士の小林さんからのきょうだい預かりについての講義が有りました。

写真下：7月15日（土）オレンジクラブの夏飾りに参加したChild Wishの皆さん

次は、6月26日開催のボランティア研修会でご自分のボランティア活動の事を話してくださいましたオレンジクラブの谷内さんのお話です。2回に分けて掲載します。後半は8月号です。

ボランティア研修会によせて（前半）

「出来るか出来ないかではなく、やるかやらないかだ」

手芸グループリーダー・外来メンバー 谷内うらら

外来ボランティア活動を始めて9月で18年に入ります。仕事をしていた頃から手が空いたらどんな風に時間を過ごしていったらいいのだろうかとか心のどこかにありました。

私はクリスチャンではないのですが、仕事の関係で牧師さんのお話を聞く機会が度々あり、その中で「人に奉仕を」「奉仕の精神で」「奉仕の心で」の言葉が心にずーっと残っていました。そこでは、多様な人との出会いがあり、たくさんの事を学び、気付かされたことはとても大きかったです。

生まれ育ったところは、四季折々の大自然は素晴らしかったのですが、とても田舎でしたので他には何も無い！！そんな中、なぜか本だけはありました。読んで知っているんな事を考えさせられ、未知の世界・夢の世界へと。そのうち気になった事は書きとめていくノートを作り始めました。ただメモに残してあるだけですが、その中に

『50歳過ぎたら人の為に生きなさい。自分の事で落ち込んだりしたのは若い頃の話。自分が迷っている場合じゃない。』

強烈でした。50歳過ぎても迷う事ばかり。でも「心に留めて置きます」と本につぶやきました。そんなこんなで過ごしていると、ある新聞のチラシや広告の中に「ボランティア研修会」の事が目に留まり、すぐに申し込み研修を受けました。

どうしようかなー、できるかな〜と。するとね、出来るか出来ないかではなく、やるかやらないかだと私のメモノートが追いかけてきます。そしてボランティアの第1歩を踏み出しました。

5年前までは週1回3時間、今は火曜日の午後2時間ロビーに立ちながら、玄関の車寄せ、会計があるロビーあたりの車椅子のトイレ、再来機と目配りしながら、必要な時に動きます。

そんな中で、10年前ぐらいから私の活動日の火曜日に月1〜2回必ずと言っていい程通院される親子さんが4〜5組位いらっしゃいます。それぞれの行動パターンでお手伝いしていますので、そのうち少しずつ世間話をしてくれるようになり、

ー暫くお会いできなかったけどどうしたの？

「入院していたの。救急車で運ばれてね。昨夜は眠れなかった。」

「40歳目前だけど看護学校へ行く事にしましたー♡」

お会いするたびに、「若い人にはついて行けない〜」「覚えられないし、すぐ忘れるのよ。」と言いながら、その方はもう2年前から立派に仕事についています。「夜勤もあるからたいへんだよ〜」と。頭が下がるばかりです。そして逆に「先週いなかったね〜」と私の事を気にかけてくださり、お互いに気にかけてくれる人がいると頑張れる気がしますね。こんなに長い間通院なさっているのにまだまだ先はわからない。お母さまの負担は大きいなーと。

神様に祈りたい気持ちです。どうか守ってくださいね、と。

活動は、1週間のうちのたった2時間ですが、次の2時間、次の3時間と繋いでいってくれたら嬉しいなと思います。ボランティア活動するかどうか考えていましたら、どうぞ一歩踏み出してみてください。困ったときにはボランティアコーディネーの加藤さんがいます。ボランティア仲間もいます。

（後半は夏飾りやクリスマス飾り等の活動についてです。お楽しみください。）